

令和7年度 第4回番組審議委員会(書面開催)議事録

- 1 開催年月日 令和8年3月
※書面開催のため、月だけ記載
- 2 委員
 - ① 委員総数 7名
 - ② 回答委員数 7名
 - ③ 回答委員 種橋 潤治 (株式会社三十三銀行特別顧問)
小林慶太郎 (四日市大学 副学長)
小松 威仁 (四日市市 危機管理統括部 部長)
馬瀬 隆彦 (四日市市スポーツ協会 会長)
佐々木薫子 (四日市商工会議所女性部 副会長)
松井真理子 (特定非営利活動法人
市民社会研究所 代表理事)
出口 功 (特定非営利活動法人
菰野町スポーツ・文化振興会 事務局長)
- 3 審議番組
特別番組「令和の防災減災を語る」2026年1月放送 30分
※審議用に59分番組を30分に再編集
- 4 審議内容
 - ①視聴番組に対するご意見・ご感想
■良い点 ■改善が必要な点 ■今後の課題 等をお聞かせください。

委員：BGMはもう少しおさえてもよいのでは。
せっかく気象庁キキクルに対する話題が出たので、内容説明があってもよかった。
話題にそぐわずゲストが笑ってしまっている際にも、パーソナリティが落ちついて対応しているのがよかった。
災害がおこった一連の流れが話のメインだったが、豪雨災害にまともらず普段の防災対策ももう少し引き出してほしかった。
立場が逆転して質問しているのは面白い。
消火器の使い方、勉強になった。
「令和の」というタイトルがついているのであれば、「明治」「昭和」「平成」など、時代による防災に対する違いを比較してもよかったのでは。

委員：<良い点>
なぜ防災減災を語るのかの導入部分は、具体例を引き合いに落ち着いた調子の入り方で聴く方もこのテーマに入り易いと思った。
2人の声のトーンも話すスピードも聴取する側として、心地良い響きを感じた。
内容も充実していて、「避難所に行くだけが避難じゃない。安全な所に」、「気付きの防災。自分で考え、防災力を高める」という言葉には納得した。
<改善するとよい点>
ラジオは音しか聴いてないので、発言する人は不快感を与えないように話し方や癖には留意してほしい。
今回の30分の尺のものは、丁度良い長さに思えたが、元の59分だと少し長すぎないか心配になった。

<今後の課題>

時宜に応じて、季節に合わせた防災減災を採り上げていく工夫をお願いしたい。

委員：<良い点>

聞き手の田中さんの声が話すスピードも適格で聞き取りやすい。

大雨の時の避難の在り方について、周りの状況に応じた避難場所など、なるほどと感じることが多かった。

坂倉さんのお話から緊急時のコミュニティFMの役割、重要性をあらためて感じた。

<改善するとよい点>

30分に再編集されているので、59分番組では、話されていたかもですが、気象庁のキキクルをはじめ防災情報アプリなどについて避難の参考になるので、もう少し情報が欲しかった。

<今後の課題>

今後も記録的短時間大雨情報が出された場合などはコミュニティFMの役割は多いと考えられるが、受信状況が悪いところも含めスマホでの放送受信を広げていければと考える。

委員：「1時間雨量123.5ミリは1966年以降の統計で一番多かった」とあるが、正しくは、南部丘陵公園に設置の雨量計「アメダス四日市」においては観測史上最大であったが、本市としての観測史上最大1時間雨量は、令和元年9月4日～6日の集中豪雨における125ミリ（9月5日午前1：00時点：観測所＝山城）となる。

市のHPの防災情報について触れられており、市として重要なPRとなり、大変ありがたかった。

避難指示が発出された場合の冷静な対処法について非常に分かりやすい説明であった。

委員：<良い点>

落ち着いたトーンで、聴きやすい番組だった。

一般論に終始せず、地域密着で地元の状況に即した話と関連づけられていたので、内容面でも、我がこととして、親近感を持って聴けたように思う。ゲストに、災害時におけるコミュニティFMの役割や意義を語っていただけたことは、今後の番組制作への指針としても、有意義だったのではないのでしょうか。

<改善するとよい点>

単発の特別番組だったせいか、あるいは番組審議委員会用に30分に再編集されていたせいか分からないが、やや話題の掘り下げや広がりの中で、時間が足りなく感じた。

<今後の課題>

単発ではなく、シリーズ化して、放送エリア内の地域に関係する様々な防災減災に関するトピックを取り上げて、語っていただき、それをアーカイブ化して、減災教育にも活用できるような仕組みができると、良いのではないかと感じた。

委員：<良い点>

お二人の声質や話し方に好感が持て、とても聞きやすかった。

9月の豪雨の際の状況を時系列を整理して説明していただいたので、改めて事実関係がよくわかった。

災害時に、四日市市やCTYがどのような取組みをされているのかや、

CTYのルールがリアルにわかった。

坂倉防災研究所代表の坂倉啓史さんが、一般の市民の立場として9月の豪雨時の体験を話されたことが面白く、それを掘り下げる田中気象予報士・防災士の切れ味がよかった。

全国的な災害時のニュースとは異なり、地域の情報提供の場合は、具体的な地理的状况を思い浮かべることができ、一人ひとりの状況に思いを馳せることができることが、報道の姿勢の違いを生みだすことがよく理解できた。また、そのことを地域の人々に伝えていくには、CTYの取組みを地域で活動する坂倉防災研究所等の外部団体と連携することが効果的であると感じさせてくれた。

消火器の大きさによる機能の説明により、初期消火の重要性とそのためにも家庭では小さめの方がいいという情報に説得力があった。

四日市には「チーム四日市」があることを伝えてくれた。

一人ひとりの市民が「ちょっとした防災力を高める」ことの大切さを伝えていただいたことがよかった。

<改善するとよい点>

田中さんが9月の豪雨の際の報道で「避難所に行くことが危険な場合は2階へというニュアンスで伝えた」と言われたが、「ニュアンス」というのは伝えたのかどうか分からない。実際にどう伝えたのかをはっきり伝えてほしいと感じた。

<今後の課題>

地域に根差した災害対策のためには、CTYと地域の団体がもっとつながることが必要であると感じる。地域の諸団体との連携にもっと力を入れるといいと思う。

委員：市民の防災意識を高める良い内容であった。

地域で共助を担う機関として多くの市民が活動し防災のリーダーとして地域住民の安全を守っていることがよく伝わってきた。

過去の災害から多くを学び、将来の災害に備える事の大切さを伝え、地域ぐるみの防災への取り組みを進めて市民1人ひとりの防災意識向上が特に重要であると考えさせられた

軽い話しぶりであったが非常に有効でよい番組であった

②番組制作全般に対するご意見、ご提案など

委員：有事の際のラジオは強し！！これからもよろしくお願ひたい。

委員：財政事情もあると思うが、現状やや情報番組なのかスポンサー様の広告なのかが判然としないような番組が多いような気がする。

今回、聴かせてもらった番組のように、この放送エリア内の地域に関連した話題を分かりやすく落ち着いた親しみやすい語り口でお話しいただくような自主制作番組が増えることを期待している。

委員：四日市福祉会さんのご厚意で、「四日市居場所ネットワーク」が4月からCTYFMの番組に参加することになって喜んでいいる。
このような市民参加型（特に高校生・若者）の番組づくりに期待する。

5 記事の公示

CTY-FM ホームページにて 2026年4月8日 公示

以上